

新建福岡・NOW

第10号 2015.03

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

「忙しい」という字は心を失うと書きます。充実した時間を過ごしていることの裏返しかもしれません。年度末は仕事の締め切りに加え、花見をはじめ行事がてんこ盛り。皆様いかがお過ごしでしょうか？新建福岡・NOW もやっと 10 号を出すことができました。No.1 が 2011.03 とありますのでまる 4 年です。東日本大震災と共に歩み出したこととなります。新建福岡支部の活性化のためにも、福岡支部メーリングリストと共に皆様のお仕事の PR、「こんなことやってますよ！」と情報をお寄せいただきご活用ください。

新年会 in 新谷別荘 : 2/6~2/7 報告者 : 洪田

昨年台風で中止になっていた糸島の新谷別荘でのバーベキュー。今は牡蠣がおいしいということで、忘年会の時に急きょ開催が決まりました。久々の合宿気分、月末に行われる新建学校の準備会にもなりました。美しい海の眺めに癒された非日常の時間を堪能することができました。新谷先生お世話になりました。



新建学校 2015in 福岡 : 2/28 報告者 : 伊集院



■新建福岡支部が新たな段階へ

2月28日(土)18時、アクロス福岡2階研修室前のロビーは和やかな雰囲気。あちこちで「あれ、久しぶりです」と声上がる。数十年ぶりに顔を会わせる会員は「どうしていますか?」。新建学校 in 福岡の一コマ。今回、福岡支部が開催した催しの特徴がよく表れた場面でした。

新建学校 in 福岡「20世紀建築運動の成果と21世紀の課題～新建はいま何を目指すのか～」は、本多昭一氏をお招きし、長くて硬いタイトルを掲げて開催。このテーマで参加者が39名。

明治時代に始まった近代建築、その大きな流れの中でデザインをテーマにして始まった建築運動。建築家の運動から、市民の立場から見た建築運動へ。建物の保存活動、更に街並保存などをテーマにした建築運動への展開。このような硬い講演にも関わらず、誰ひとり眠くなることもなく、一気呵成の90分。

参加者の声が講演内容をよく表している。「新建の活動がよく分かった」「建築運動の歴史、新建の成り立ち、活動の歴史がよく分かった」「もっと夜の活動に力を入れるべきだ」「住み手主義、使い手主義の大切さが再確認できた」「少子高齢化にあわせて作るのではなく、少子高齢化、そのものにどう対処するか?という話は志が高く、素晴らしい」

■福岡支部は変わった

大きな特徴がある催し物であった。第1に、昨年の総会后6か月の間に「新建学校 in 福岡」を2回開催。半

年間という短い期間に「企画」（外に打って出る企画）を2回実施したのは、40数年間の中で初めての出来事。

第2に、年度末（2月下旬）に会員の5割（23名）が参加。会員の半数が集まる場面は、設立総会以来か（?）。本多先生の「久しぶりに福岡支部の会員の方に会いたい」という希望にこたえた。2月の幹事会では、親しい会員に電話でお誘い。「今回の催しは、多くの会員が顔を合わせる機会にしよう」という当初の目標に向けた準備が功を奏した。

第3は危機管理。昨年12月の幹事会では開催が危ぶまれたにも関わらず、準備体制を立て直した。開催準備の中心になった洪田さんをはじめとした会員の力が結集し、実りが大きな企画となった。危機は常に内部の結束を生み出すチャンスでもある。

■新たな挑戦

「新建はいま何を狙っているのか」はまさに福岡支部の現状と未来への問いかけ。新建全体への問いかけである。「新たな領域への挑戦」、更には「日々の忙しい状況にあわせた活動スタイルの構築」など、今回の新建学校のテーマは福岡支部の今後の課題をよく表している。

■歴史に学ぶ

今回の講演の中で、NAUなどの歴史的な建築運動が「会員が忙しくすると伴に衰退した」という指摘があった。新建福岡支部が設立から数えて40数年。この歴史は誇りであると同時に、組織内部の現状と会員一人一人の状況を大きく変えた。紅顔の美少年が今は立派な建築事務所の所長である。一方で新入会員が少なく、会員の年齢構成はその中心が40～60歳代へと変わった。

■酔うほどに若くなる会員

講演会の後は、恒例の懇親会。24名の参加者は鍋をつつきながら飲みながら談論風発。21時に始まった懇親会はシンデレラの時刻を過ぎ、深夜2時まで。あらかじめ宿泊できる会場（木香庵）を準備し、講師を交えて延々と懇親を深めた。お酒が入れば、誰もが「青春の詩」。



■二日酔いで歩いた見学会

2日目は津屋崎に足を延ばして、江戸時代に形づくられた町並みを散策。往時をしのび、ガイドの名解説を聞き、饅頭を食べながら、一步、一步。途中、講演会の最後に出てきた「高齢化しつつあるコミュニティの再生」について、会員が本多氏に問いかけるも、話は弾まず。昼食の時も静かにしている本多氏。察しがいい会員は気づいてそっとしていらしいが、さっしが悪い会員は盛んに本多氏に問いかけるも物静か。「あれ？本多氏はこんなに物静かな人だったかな」と思う参加者。昨晚の元気あふれる本多氏とは様変わりした様子。懇親会の名残に身をゆだねた見学会。本多氏をはじめとして、二



日酔いでも見学会に参加した方はおくびにも顔に出さずに歩いた。お昼ご飯は気を利かせて、漁港名物（お刺身）を堪能。津屋崎を後にして、更に車に揺られながら、一路、ザビエル聖堂へ。本多氏は手にした饅頭をどうされたのだろうか？

■「米と発電の二毛作」現地へ

講演会が開会する7時間前、本多氏を博多駅新幹線口で出迎え。福永博氏が進めている「米と発電の二毛作」プロジェクトの現場を見学。東日本大震災、原発の事故を経験し、日本の自前のエネルギーを確保するには、どうしたらいいか？現代日本が抱えた大きな課題。このプロジェクトは、水田の上空に太陽光パネルを設置して発電し、原子力発電に頼らないエネルギーを生み出すという画期的な試み。「感心しました」と本多先生。



福岡支部からのお礼に対して先生からの返信メールです！

本多です。こちらこそ大変お世話になりました。

講演(新建学校)は、立派な会場で、支部会員のほとんどが参加していただく盛会で、本当にありがとうございました。

懇親会では、以前に福岡で行った講演の内容を覚えていてくれた方も何人も居られて、「あのお話のおかげで仕事がうまくできています。」という嬉しい話も聞かせていただき感激でした。以前の講演の内容をまとめた支部ニュースを持参していただき、お願いしてコピーもいただきました。自分が話したことですが、あらためて懐かしく読みました。

日曜日の見学も非常によかったです。津屋崎はいい街ですね。土産に買ったウミガメ型 の饅頭は、うちでも大好評でした。「聖堂再生」の、聖ザビエル教会は、他に例のない大変な建築保存事業で、敬服しました。素晴らしい見学会でした。

土曜午後、新建学校開会前の時間に福永博さんの「米と発電の二毛作」プロジェクトの試行を見学させていただきました。これも感心しました。

帰りにいただいたお魚、美味しくいただいています。皆さんによろしくお伝えください。

新建福岡支部・全国 今後の予定

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4月1日(水) | 花見 |
| 6月頃 | 例会：福岡支部実践報告会「私の仕事」 |
| 7月3～5日(金～日) | 沖縄地区の新建会員等との交流会、 |
| 8月28～30日(金～日) | 建築とまちづくりセミナーin 福島 |
| 9月頃 | 例会：終の棲家考 |
| 11月28～30日(土～月) | 新建全国大会 in 東京 |